

200
260
181七



东门日条

王保七季丙申

六月分仙居

西尾庚子南之議論至二月廿日

九月...

十九

此後... 其の... 其の... 其の...

○二月... 其の... 其の... 其の...

○三月... 其の... 其の... 其の...

○四月... 其の... 其の... 其の...

○五月... 其の... 其の... 其の...

○六月... 其の... 其の... 其の...

○七月... 其の... 其の... 其の...

○八月... 其の... 其の... 其の...

○九月... 其の... 其の... 其の...

○十月... 其の... 其の... 其の...

○十一月... 其の... 其の... 其の...

○自國封元の細道 上中の命負上りよる
○一三多田村の事 上は長島守の
○此の事 守の事 守の事 守の事

○世の事 守の事 守の事 守の事

○正月

○板屋内膳台重男

○十月末上候 守の事 守の事 守の事

○八月の事 守の事 守の事 守の事

○十月の事 守の事 守の事 守の事

○九月の事 守の事 守の事 守の事

○八月の事 守の事 守の事 守の事

○七月の事 守の事 守の事 守の事

○六月の事 守の事 守の事 守の事

○五月の事 守の事 守の事 守の事

○四月の事 守の事 守の事 守の事

○三月の事 守の事 守の事 守の事

○二月の事 守の事 守の事 守の事

○一月の事 守の事 守の事 守の事

○十二月の事 守の事 守の事 守の事

○十一月の事 守の事 守の事 守の事

○本朝の歴史を記すに先づ古史の記述を考へて其の是非を定むるに始むべし

○古史の記述を考へて其の是非を定むるに始むべし

○古史の記述を考へて其の是非を定むるに始むべし

○古史の記述を考へて其の是非を定むるに始むべし

○古史の記述を考へて其の是非を定むるに始むべし

○古史の記述を考へて其の是非を定むるに始むべし

○古史の記述を考へて其の是非を定むるに始むべし

○古史の記述を考へて其の是非を定むるに始むべし

○古史の記述を考へて其の是非を定むるに始むべし

○古史の記述を考へて其の是非を定むるに始むべし

○古史の記述を考へて其の是非を定むるに始むべし

○古史の記述を考へて其の是非を定むるに始むべし

○古史の記述を考へて其の是非を定むるに始むべし

○九日晴雨春在窗多喜也其日乃係久八五揚春

○十日晴晴晴之夕八日此字後其不覺其樂也誠之德即其去又十公以

○十一日晴晴晴之夕八日此字後其不覺其樂也誠之德即其去又十公以

○十二日晴晴晴之夕八日此字後其不覺其樂也誠之德即其去又十公以

○十三日晴晴晴之夕八日此字後其不覺其樂也誠之德即其去又十公以

○十四日晴晴晴之夕八日此字後其不覺其樂也誠之德即其去又十公以

○十五日晴晴晴之夕八日此字後其不覺其樂也誠之德即其去又十公以

○十六日晴晴晴之夕八日此字後其不覺其樂也誠之德即其去又十公以

○十七日晴晴晴之夕八日此字後其不覺其樂也誠之德即其去又十公以

○十八日晴晴晴之夕八日此字後其不覺其樂也誠之德即其去又十公以

○十九日晴晴晴之夕八日此字後其不覺其樂也誠之德即其去又十公以

○二十日晴晴晴之夕八日此字後其不覺其樂也誠之德即其去又十公以

○二十一日晴晴晴之夕八日此字後其不覺其樂也誠之德即其去又十公以

○二十二日晴晴晴之夕八日此字後其不覺其樂也誠之德即其去又十公以

○二十三日晴晴晴之夕八日此字後其不覺其樂也誠之德即其去又十公以

○二十四日晴晴晴之夕八日此字後其不覺其樂也誠之德即其去又十公以

○二十五日晴晴晴之夕八日此字後其不覺其樂也誠之德即其去又十公以

○二十六日晴晴晴之夕八日此字後其不覺其樂也誠之德即其去又十公以

○二十七日晴晴晴之夕八日此字後其不覺其樂也誠之德即其去又十公以

○二十八日晴晴晴之夕八日此字後其不覺其樂也誠之德即其去又十公以

○二十九日晴晴晴之夕八日此字後其不覺其樂也誠之德即其去又十公以

○三十日晴晴晴之夕八日此字後其不覺其樂也誠之德即其去又十公以

○三十一日晴晴晴之夕八日此字後其不覺其樂也誠之德即其去又十公以

○三十二日晴晴晴之夕八日此字後其不覺其樂也誠之德即其去又十公以

○三十三日晴晴晴之夕八日此字後其不覺其樂也誠之德即其去又十公以

○三十四日晴晴晴之夕八日此字後其不覺其樂也誠之德即其去又十公以

○三十五日晴晴晴之夕八日此字後其不覺其樂也誠之德即其去又十公以

○三月廿七日 吉 亥 未 申 酉 戌 亥

○三月廿八日 吉 寅 卯 辰 巳 午 未 申 酉 戌 亥

○三月廿九日 吉 辰 巳 午 未 申 酉 戌 亥

○三月三十日 吉 巳 午 未 申 酉 戌 亥

○三月三十一日 吉 午 未 申 酉 戌 亥

○四月一日 吉 未 申 酉 戌 亥

○四月二日 吉 申 酉 戌 亥

○四月三日 吉 酉 戌 亥

○四月四日 吉 戌 亥

○四月五日 吉 亥

○四月六日 吉 子

○四月七日 吉 丑

○四月八日 吉 寅

○四月九日 吉 卯

○四月十日 吉 辰

○四月十一日 吉 巳

○四月十二日 吉 午

○四月十三日 吉 未

○四月十四日 吉 申

○四月十五日 吉 酉

○四月十六日 吉 戌

一、... 〇... 〇... 〇... 〇... 〇...
 ... 〇... 〇... 〇... 〇... 〇...
 ... 〇... 〇... 〇... 〇... 〇...

〇... 〇... 〇... 〇... 〇... 〇...
 ... 〇... 〇... 〇... 〇... 〇...
 ... 〇... 〇... 〇... 〇... 〇...

〇... 〇... 〇... 〇... 〇... 〇...
 ... 〇... 〇... 〇... 〇... 〇...
 ... 〇... 〇... 〇... 〇... 〇...

〇... 〇... 〇... 〇... 〇... 〇...
 ... 〇... 〇... 〇... 〇... 〇...
 ... 〇... 〇... 〇... 〇... 〇...

○... 為儀也先人法津... 一人身を... 海邊... 船中...

○... 十古... 船中... 船中... 船中...

○... 十月... 船中... 船中... 船中...

○... 十月... 船中... 船中... 船中...

○... 十月... 船中... 船中... 船中...

○... 十月... 船中... 船中... 船中...

○... 十月... 船中... 船中... 船中...

○... 十月... 船中... 船中... 船中...

○ 夫は子とて又もその子也のては戸功是多き...
○ 夫は子とて又もその子也のては戸功是多き...
○ 夫は子とて又もその子也のては戸功是多き...

○ 夫は子とて又もその子也のては戸功是多き...
○ 夫は子とて又もその子也のては戸功是多き...
○ 夫は子とて又もその子也のては戸功是多き...

○ 夫は子とて又もその子也のては戸功是多き...
○ 夫は子とて又もその子也のては戸功是多き...
○ 夫は子とて又もその子也のては戸功是多き...

○ 夫は子とて又もその子也のては戸功是多き...
○ 夫は子とて又もその子也のては戸功是多き...
○ 夫は子とて又もその子也のては戸功是多き...

○ 夫は子とて又もその子也のては戸功是多き...
○ 夫は子とて又もその子也のては戸功是多き...
○ 夫は子とて又もその子也のては戸功是多き...

○十八日雨あつちり多し夕暮り涼しく山吹草花
花の匂いもあつちり多し夕暮り涼しく山吹草花
花の匂いもあつちり多し夕暮り涼しく山吹草花

○十九日晴れあつちり多し夕暮り涼しく山吹草花
花の匂いもあつちり多し夕暮り涼しく山吹草花
花の匂いもあつちり多し夕暮り涼しく山吹草花

○二十日晴れあつちり多し夕暮り涼しく山吹草花
花の匂いもあつちり多し夕暮り涼しく山吹草花
花の匂いもあつちり多し夕暮り涼しく山吹草花

○二十一日晴れあつちり多し夕暮り涼しく山吹草花
花の匂いもあつちり多し夕暮り涼しく山吹草花
花の匂いもあつちり多し夕暮り涼しく山吹草花

○二十二日晴れあつちり多し夕暮り涼しく山吹草花
花の匂いもあつちり多し夕暮り涼しく山吹草花
花の匂いもあつちり多し夕暮り涼しく山吹草花

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

○ 昔の頃、江戸に船が通るようになったのは、徳川幕府の治世からである。船が通るようになったのは、江戸に船が通るようになったのは、徳川幕府の治世からである。

○ 江戸に船が通るようになったのは、徳川幕府の治世からである。船が通るようになったのは、江戸に船が通るようになったのは、徳川幕府の治世からである。

○ 江戸に船が通るようになったのは、徳川幕府の治世からである。船が通るようになったのは、江戸に船が通るようになったのは、徳川幕府の治世からである。

○ 江戸に船が通るようになったのは、徳川幕府の治世からである。船が通るようになったのは、江戸に船が通るようになったのは、徳川幕府の治世からである。

○ 江戸に船が通るようになったのは、徳川幕府の治世からである。船が通るようになったのは、江戸に船が通るようになったのは、徳川幕府の治世からである。

○ 江戸に船が通るようになったのは、徳川幕府の治世からである。船が通るようになったのは、江戸に船が通るようになったのは、徳川幕府の治世からである。

○ 江戸に船が通るようになったのは、徳川幕府の治世からである。船が通るようになったのは、江戸に船が通るようになったのは、徳川幕府の治世からである。

○ 江戸に船が通るようになったのは、徳川幕府の治世からである。船が通るようになったのは、江戸に船が通るようになったのは、徳川幕府の治世からである。

○ 江戸に船が通るようになったのは、徳川幕府の治世からである。船が通るようになったのは、江戸に船が通るようになったのは、徳川幕府の治世からである。

○ 江戸に船が通るようになったのは、徳川幕府の治世からである。船が通るようになったのは、江戸に船が通るようになったのは、徳川幕府の治世からである。

大徳... 村々... 四十年...

修... 亦... 又... 子... 海...

○... 又... 又... 又... 又...

○... 又... 又... 又... 又...

○... 又... 又... 又... 又...

○... 又... 又... 又... 又...

○... 又... 又... 又... 又...

○... 又... 又... 又... 又...

○... 又... 又... 又... 又...

○... 又... 又... 又... 又...

中條元人の事... 九階改米...

十月十日... 吃梅果上...

十月十日... 拖渡元の事...

十月十日... 十月十日...

十月十日... 十月十日...

十月十日... 十月十日...

十月十日... 十月十日...

十月十日... 十月十日...

十月十日... 十月十日...

十月十日... 十月十日...

十月十日... 十月十日...

十月十日... 十月十日...

十月十日... 十月十日...

十月十日... 十月十日...

十月十日... 十月十日...

十月十日... 十月十日...

十月十日... 十月十日...

十月十日... 十月十日...

是の如く... 山麓の如く

○古くは... 山麓の如く... 山麓の如く... 山麓の如く...

○古くは... 山麓の如く... 山麓の如く... 山麓の如く...

○古くは... 山麓の如く... 山麓の如く... 山麓の如く...

○古くは... 山麓の如く... 山麓の如く... 山麓の如く...

○古くは... 山麓の如く... 山麓の如く... 山麓の如く...

○古くは... 山麓の如く... 山麓の如く... 山麓の如く...

○古くは... 山麓の如く... 山麓の如く... 山麓の如く...

○古くは... 山麓の如く... 山麓の如く... 山麓の如く...

○古くは... 山麓の如く... 山麓の如く... 山麓の如く...

○十日高田... 院... 大...

○十日... 院... 大...

○十日... 院... 大...

○十日... 院... 大...

○十日... 院... 大...

○十日... 院... 大...

○十日... 院... 大...

○十日... 院... 大...

○十日... 院... 大...

○十日... 院... 大...

○十日... 院... 大...

○十日... 院... 大...

○十日... 院... 大...

